

NHK大河ドラマを活用した本市の取組は

問 NHK大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」を活用した取組と評価は。

答 市長／令和四年一月の大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」の放送開始に合わせて、パブリックビューイングを原地区センターにおいて開催するとともに、地元自治会や商工会等で組織された原・浮島地区観光活性化プロジェクトチームに参画し、阿野祭の開催など、地域が主体となった取組を支援した。また、県や県東部の市町と連携し、スタンプリーやPRを行うなど、広域での誘客に取り組んだ。このことにより、地域の

活性化や交流人口の拡大につながるものと認識している。

問 原・浮島地区における文化財活用取組は。

答 教育次長／原・浮島地区には、国指定史跡である興国寺城跡や国登録記念物（名勝地関係）である帯笑園などをはじめとした文化財が多数存在している。これら主要な文化財に加え、顕在化していない地域の歴史資源の周知を図るため、文化財まちあるきマップを作成したほか、点在する史跡などの位置を示す案内看板の設置を予定している。

大場 豪文



学校内にフリースクールを設置する考えは

問 フリースクールは、学校に行かない児童生徒にとって、居場所や学びの場を提供する選択肢として有効な場所であると考えますが、学校内にフリースクールを設置する考えは。

答 教育長／本市では、学習意欲はあるものの、教室に入ることができない児童生徒のために、相談室などの別室を設けている。別室に通う場合には、昇降口や下駄箱を区分するなど、通いやすい環境づくりに努めるとともに、児童生徒支援員や授業を担当していない教員などが交代で学習支援を行っている。また、一人

一台端末を活用して、クラスの授業に参加するなど、校内フリースクールと同様の対応に努めている。一方、不登校児童生徒のために県から教員が加配される制度があるものの、その人数に限りがあることや、児童生徒支援員や教員が対応できる時間も限りがあることが課題である。そのため、校内における児童生徒の居場所を確保し、誰一人置き去りにしない教育環境づくりに向けて、相談室などにおける指導体制の充実に取り組むとともに、教員の加配についても県に要望していく。

小泉 宣子



兄弟姉妹が別々の保育園等に通うことに対する認識は

問 保育園等への入所の際、保護者の意向に反し、兄弟姉妹が別々の園に通うことに対する認識は。

答 福祉事務所長／保育園等への入所については、入所調整基準に基づく点数制により優先順位をつけて決定している。その際、兄弟姉妹の申込みは加点により優先されるよう配慮しているほか、令和元年十一月には、点数が同点の場合、兄弟姉妹が有利になるよう入所調整基準の一部改正を行った。保護者の意向に反し、兄弟姉妹が別々の園に通うことは、子供の不安感や家庭の負担を考慮す

ると望ましくないと認識しているものの、ひとり親やDVなど、ほかにも入所への配慮が必要な要素があることや、定員の都合により、別々の園に通う状況の完全な解消は困難な状況である。今後も、兄弟姉妹がなるべく同じ園へ入所できるように、各園と相談しながら、きめ細かな入所調整に努めていく。



▲本市では兄弟姉妹が同じ園に通えるよう配慮している

山下 富美子



新中間処理施設整備を再開した理由は

問 新中間処理施設整備について、①本事業は、平成二十七年に一旦中断されたが、事業を再開した理由は。②本施設における熱源利用プラスタッフの処理方法を見直す考えは。

答 生活環境部長／①本施設整備は、東京オリンピック開催や他自治体での焼却施設更新の集中により建設コストの高騰が見込まれたことなどから、平成二十七年にスケジュールの順延を決定した。しかしながら、現施設は、設備の老朽化が進行していること、十分な耐震性能を有していないことから、早期の建て替えが

必要であると判断し、事業を再開したものである。今後も周辺住民の理解が得られるよう努めながら事業を進めていく。②本施設の基本設計において熱源利用プラスタッフは、破碎・選別後に焼却する計画としているが、令和四年四月のプラスタッフに係る資源循環の促進等に関する法の施行に先立ち、環境省からプラスタッフ使用製品廃棄物の分別収集の手引きが示され、市町村が講じる対策の詳細が明らかになったことから、引き続き適切な処理方法について検討していく。

江本 浩一

